

# 『太平記』に見る合戦の経過

## ①合戦の発端

1359年7月、征西將軍宮懷良親王<sup>せいせい</sup>を大将として、新田や菊池の軍勢(南朝方)が、大宰府へ攻め寄せてくるという情報を得た少式頼尚(北朝方)は、敵を迎え討とうと筑後に出陣しました。

## ②両軍の陣容

北朝方は、大将少式頼尚・その息子新少式<sup>ただすけ</sup>忠資、三原・秋月の一族など計6万余騎が、杜の渡(久留米市宮ノ陣町)を前にして味坂庄(小郡市鯨坂)に陣を取りました。一方、南朝方は征西將軍宮懷良親王、新田の一族、侍大将には菊池武光など計8千余騎が高良山・柳坂・水繩山の3か所に布陣しました。

## ③戦端

7月19日、菊池はまず手勢5千騎を率いて筑後川を渡り、少式勢に向かって押し寄せましたが、少式頼尚はこれには応戦せず、30町余り(約20km、実際には約9km)退いて大原(大保原)に陣を取ります。



▲懷良親王と少式頼尚の博多人形(5ページ参照)

## ④決戦

8月16日夜半、菊池勢は夜討ちに馴れた兵を300騎ばかり選りすぐって、少式勢の裏手へ迂回。主力の兵7千騎を3手に分け、筑後川に沿って、川音に紛れて地形の険しい方から少式陣へ接近しました。正面の軍勢が少式本隊に近づいたのを見ると、裏手から300<sup>とき</sup>人が一斉に敵陣へ討ち入り、3か所同時に關の声\*を上げました。



## ⑤終結

当日卯の刻より酉の下刻まで(午前6時~午後7時)息も継がずに戦いましたが、北朝方は、新少式忠資をはじめとして一族の者23人、頼みとする郎従400人、その他の軍勢3226人までが討たれたので、もはやかなわずと見て大宰府へ撤退し、宝満が嶽に引き揚げました。南朝方も勝ち戦はしたものの、討死した者を数えると1800余人あったといわれています。

### 合戦後の九州は？

懷良親王・菊池武光ら南朝方は軍備を整え、2年後の1361年、ついに念願の大宰府入りを果たします。その後約11年間にわたって征西府は大宰府にあり、この時期が九州における南朝方の全盛期といえるでしょう。



### ▲『大原合戦図屏風』

大原合戦の象徴ともいえる屏風。これは、熊本の本画<sup>かいせいひょう</sup>家甲斐青萍が大正から昭和初期に描いたもので、郷土史家の柳勇さんが所蔵されていました。2009年にご遺族から市に寄贈いただき、現在は年に1回のみ展示しています。今回は特別展で展示しますので、じっくりご覧ください。(5ページ参照)



朝廷が南北に分かれて争った南北朝時代、騒乱は全国に及びました。そして1359年、ここ小郡は九州南北朝最大の合戦「大原合戦(大保原の戦)」の舞台となります。その名残は、言い伝えや地名として、市内の至るところに残っています。合戦から660周年に当たる今年、地域の歴史を継承し、より地域に愛着を持つきっかけとするため、さまざまなイベントを開催しています。

### 大原合戦とは？

1359年に小郡で起きた、九州南北朝の雌雄を決する戦いのことで、日本三大合戦の一つに数えられています。九州の拠点「大宰府」への進出を狙う南朝方(懷良親王・菊池武光が中心)と、大宰府を守る北朝方(少式頼尚が中心)。中世の軍記物語『太平記』には、南朝方「八千余騎」、北朝方「六万余騎」とありますが、これは物語の演出である可能性が高く、実際は互角に近い軍勢であったと想定されます。当時の軍忠状によると、戦いは8月6日の深夜2時に始まり、午前10時頃には南朝方の優勢で終わりました。詳細な記録は残っていませんが、『太平記』によると討ち死にが5400人以上に上り、戦いの激しさを物語っています。

### 用語解説

- ※軍忠状 中世日本において、参陣や軍功などを証する書類
- ※關の声 士気を鼓舞するために声を上げるさまのこと



# 大原合戦

南北朝の雌雄を決する戦いから660年

# 今後開催されるイベント一覧



イベント/会場	日時	概要
<b>入場無料</b> <b>大原合戦出張</b> <b>パネル展・講演会</b> 岩戸山歴史文化交流館 (八女市吉田1562-1)	<b>【パネル展】</b> 7月6日(土) ~14日(日) <b>【講演会】</b> 7月14日(日) 13:30~	九州南北朝の本場である八女市で大原合戦を紹介するパネル展を実施 <b>【講演会】</b> ◆講師 黒木実馬さん(戦史研究者) ◆定員 120人(要申込) ◆申込み先 ㊦
<b>入場無料</b> <b>特別展「大原合戦展」</b> 野田宇太郎文学資料館	7月20日(土) ~8月10日(土) <b>【展示解説】</b> 7月20日(土) 13:00~ <b>【記念講演会】</b> 8月6日(火) 13:30~	<b>大原合戦に関連する展示会</b> 博多祇園山笠でソラリアプラザに飾っている九番山笠「挙旗筑紫武王門」(伝統工芸士置鮎正弘さん、下川貴士さん作)からお借りした「懐良親王」と「少式頼尚」の博多人形を展示!さらに、小郡市出身の刀匠 金田國真さん作の日本刀も展示予定です。本物の迫力をぜひ体感してください。 <b>【記念講演会】</b> ◆会場 文化会館小ホール ◆講師 服部英雄さん(九州大学名誉教授) 五條元滋さん(南朝方の公家・五條家現当主) ◆定員 120人(要申込) ◆申込み先 ㊦ ◆申込締切 7月26日(金)
<b>参加無料</b> <b>ふるさと遊覧飛行</b> 運動公園多目的広場	8月3日(土)	ヘリコプターによるフライトで、合戦の舞台を上空から体感 ◆対象 小学生を含む家族3人1組※未就学児は不可 ◆定員 60組180人(要申込) ◆申込み先 ㊦ ◆申込締切 7月19日(金)
<b>入場無料</b> <b>懐良親王博多人形展</b> 松崎宿旅籠油屋	8月3日(土) ~12日(月・休) 10:00~15:00	伝統工芸士2代目西頭哲三郎さんが制作した懐良親王像をはじめとする博多人形の展示会(申込不要)
<b>高卒都婆慰霊祭</b> 史跡高卒都婆	8月4日(日) 9:30~	毎年行っている合戦で亡くなった人の慰霊祭(申込不要)
<b>大原合戦660周年記念式典</b> 東町公園	8月4日(日) 13:00~	関係者による式典(申込不要)
<b>安部龍太郎記念講演会</b> 文化会館大ホール	8月4日(日) 14:30~	八女市黒木町出身で直木賞作家の安部龍太郎さんによる講演会。※事前にチケット(1,000円)の購入が必要 ◆チケット販売場所 観光協会事務局、市役所売店、文化会館
<b>大原合戦記念剣道大会</b> 市体育館	9月1日(日)	大原合戦を冠とする剣道大会(見学自由)
<b>南北朝バスツアー</b> 市体育館(集合場所)	9月23日(月・祝) 9:00~	小郡市郷土史研究会と共に、奥八女地方の南北朝ゆかりの史跡などを訪ねるツアー ※詳しくは8月1日号でお知らせします

- **申込方法** 往復はがきに①イベント名②住所③氏名④電話番号を明記し、申込み
- **申込み先** イベントごとに申込み先をご確認ください  
 ㊦〒838-0122 小郡市小郡255-1 商工・企業立地課商工観光係  
 ㊧〒838-0106 小郡市三沢5147-3 埋蔵文化財調査センター
- **問合せ先** 大原合戦660周年実行委員会事務局(商工・企業立地課商工観光係内) ☎72-2111

# 市内外に残る関連史跡



## ◆高卒都婆(大保、自衛隊駐屯地横)

1923年(大正12年)に三井郡教育会が建てた「史蹟高卒都婆」の碑。裏面には「大保原戦ニテ戦没セシ将士ヲ埋葬供養セシ所ナリ。今尚此附近ヨリ屢々多クノ枯骨ヲ発掘ス」と彫られています。合戦の戦死者を葬り、冥福を祈るため卒塔婆を立てて供養した場所とされています。



## ◆善風塚跡(大保、大原小学校敷地内)

大原合戦では、両軍に多数の犠牲者が出たといわれ、それら戦死者を葬ったとされる塚がいくつもありました。大保には3つの塚から成る大善風と、その北側100m余の場所に4つの塚から成る小善風があり、現在も一部にその痕跡が残されています。



## ◆大原古戦場碑(小郡、東町公園内)

大原合戦を象徴する記念碑で、明治44年(1911年)に建てられました。これと同時に公園も整備されたようで、寄付芳名碑には階段を造ったことや桜を植樹したことが記されています。近くには「大原合戦600年祭記念碑」と、「鎮魂」と刻まれた大原合戦650周年記念碑もあります。



## ◆福童の將軍藤(福童、大中臣神社境内)

大原合戦で深手を負ったという懐良親王が、大中臣神社に傷の回復を祈願したところ、その加護で全快したことに感謝し、藤の木を奉納したと伝えられます。胸高周囲2m、被覆面積は500㎡にも及び、1970年(昭和45年)に県の天然記念物に指定されています。



## ◆菊池武光銅像(大刀洗町山隈)

大刀洗の地名は、大原合戦の際、菊池武光が血刀を川で洗ったという故事に由来します。その大刀洗川沿いの大刀洗公園の中に菊池武光の銅像があります。1937年(昭和12年)に建立されたこの銅像は、戦時中の金属供出は免れましたが、大刀洗空襲の際の弾痕が馬の腹などに残っています。

